様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：２４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２１１７

研究課題名（和文）植民地における近代音楽の帰属意識―東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合

研究課題名（英文）The art song and cultural identity in the colonial settings of East Asia and Australia

研究代表者
Ｔｏｋｉｔａ　Ａｌｉｓｏｎ（Tokita, Alison）

京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・日本伝統音楽研究センター所長

研究者番号：６０５８９６６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は19世紀ドイツに由来する芸術歌曲に新たな地平を開いた。日本だけでなく朝鮮、中国、オーストラリアに視野を広げたからである。まず、試演会での演奏で芸術歌曲の異文化理解が深まり、その後五ケ国の歌手による公開リサイタルの原語による演奏は、観客に衝撃を与え、画期的な出来事となった。
20世紀前半の東アジアとオーストラリアの芸術歌曲は、音楽的特徴や社会機能を共有し、自国からの影響もあり、東アジアでは唱歌や童謡、オーストラリアではバラードの影響が強いことが明らかになった。自国語の詩に作曲したことは極めて重要で、これが近代の国民帰属意識に繋がり、その時代の国民文化の形成に大きく貢献したことを確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
一国の洋楽受容史を越え、東アジアとオーストラリアの事例に視野を広げた画期的、先駆的な研究であり、将来の研究の土台を築いた。成果を国際会議や報告書で広く発表した。言葉の壁を越え、対象国の研究者との協力を得て、今後の国際的な研究の可能性を開いた。
リサイタルでは、聴衆は日本の戦前の芸術歌曲を再確認・鑑賞でき、近隣国にごく似た音楽現象があったことを認識できた。郷愁を表現する歌曲が東アジアに共通して存在したことが明らかになり、日本の音楽的感受性を相対化する機縁になった。五ケ国の歌曲のほかに、東アジアで国境を越えて活躍した作曲家もプログラムに入れ、芸術歌曲の国際的な性格を示した。

研究成果の概要（英文）：This research created a new horizon on the art song as a genre of musical modernity beyond its origin in the 19th century German Lied. It investigated the Japanese national context, but also that of Korea, China, Taiwan and Australia. Informal performances presented by locally based native speaker singers enhanced cross-cultural appreciation of art song. A public recital by international and local performers presented the comparative findings to the public. The opportunity to hear songs from these countries performed in their native language by native performers is unique and unprecedented.
The project showed that the art song in early 20th century East Asia and Australia showed essentially the same musical characteristics and socio-cultural functions. However, it also absorbed local influences. Most significantly, setting local poetic texts gave a strong local character to this international genre, and contributed to the formation of national culture in the era of colonial modernity.

研究分野：音楽学

キーワード：藝術歌曲　東アジア　オーストラリア　帰属意識

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本では歌曲研究は主にヨーロッパの歌曲に限られ、日本の芸術歌曲の研究はは少なかった。それも主に一人の作曲家の歌曲に限られていた。また、日本の芸術歌曲が、20 世紀前半の、日本内外における近代的音楽文化に貢献した、との視点を持つ研究も、他の国の芸術歌曲との比較研究も皆無だった。

２．研究の目的

(1) 日本の事例を中心に芸術歌曲の意義を探ること。(2) 近隣の朝鮮、中国、台湾、そしてオーストラリアの芸術歌曲を視野に入れて、日本の状態を相対化すること、日本と他国との共通点と相違点を見出すこと。(3) 20 世紀前半の芸術歌曲が、東アジアで近代音楽文化の形成に果たした役割、またオーストラリアで、イギリスから離れた独自の近代音楽文化の形成に果たした役割を、明らかにすること。

３．研究の方法

(1) 定期的な研究会で発表し合った。海外の協力研究者と Skype で話し合った。資料館から資料を探し出して、コピー・スキャンして、分類、分析したデータをクラウドでメンバーが共有した。(2) 数回の歌曲試演会を行った。日本居住の歌手にお願いして当該国の歌曲を演奏してもらった。リサイタルの準備段階となった。(3) 公開のリサイタル。海外から歌手を呼んで、日本、韓国、中国、台湾の歌曲のバランスの取れたプログラムを立てた。またチェレプニン、タンスマン、江文也、グレインジャーなど、国境を越えて活躍した作曲家の歌曲もいれた。補足の外部資金を獲得した。

４．研究成果

(1) 2017 年 3 月 23 日に東京で行われた国際音楽学会（IMS）の大会でラウンドテーブルを実施した。(2) 2017 年 3 月 25 日に京都府民ホール ALTI で公開リサイタルを主催した。(3) 2017 年 3 月 26 日に同志社女子大学今出川校で国際シンポジウムを行った。 (4) 国際大手出版社ラウトレッジに論文集を出版提案した。一度返され、現在再提出の準備中。 (5) リサイタルで撮った DVD を台湾国立師範大学の研究協力者によりマスターができた。論文集に付加する予定。(6) 2019 年 3 月 31 日に報告書を出版した。CD-ROM 追加資料付き。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 26 件）

『植民地における近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合—』（平成 27～30 年度科学研究費助成金研究成果報告書、課題番号 15Ｋ０２１１７、基盤研究Ｃ、研究代表者：時田アリソン）2019 年 3 月 31 日。

1. 時田アリソン：植民地における近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合. 3-12.
2. 津上智実：The reception of art song in modern Japan through an analysis of changing terminology. 13- 14.
3. 日下部祐子：近代日本における芸術歌曲の創作について.15-24.
4. 竹内直：Development of Japanese art songs in the late 1920's to 1930's and the formation of an art song canon. 25-30.
5. 仲万美子：1932 年大連での芸術歌曲演奏会について：演奏家のレパートリー、公演ツアーに焦点を当てて.31-46.
6. 仲万美子： 20 世紀前半の日本の芸術歌曲の受容／創作／演奏における作曲家・詩人・声楽家・評論家・聴衆との影響関係：定期刊行物収載記事を手がかりにして. 47-58.
7. 劉麟玉：The art songs of Koh Bunya (Jiang Wen Yeah, 1910-1983) in the 1930s and 1940s: a contact point between Taiwan, Japan and China. 59-64.
8. Kyungboon LEE：Kim Sun-nam (1917-1986): A composer caught between Japan and South and North Korea. 65-72.
9. Joys CHEUNG：Art songs in China..73-75.
10. Joys CHEUNG：Ancient piety in a Chinese art song: Musical translation and filmic use of a work by Huang Zi (1904-1938). 76-81.
11. Joel Crotty： Links between East Asia and Australia through art song 82-83
12. Joel Crotty：Reality of the exotic: Australian cultural engagement with East Asia as demonstrated through a selection of Duncan McKie's mid-20th century art songs. 84-85.
13. 時田アリソン： The art song and cultural identity in the colonial settings of East Asia and Australia. 90-93.
14. 時田アリソン：Linda Phillips (1899-2002) and Chen Tianhe (1911-1955): A transnational perspective on art songs, composers and the formation of a modern musical identity. 94-98.

15. 仲万美子：大連——重層する文明・往還する文化『比較文明学会会報』70 号: 9-10. 2019

16. 竹内直：松平頼則の《南部民謡集》をめぐって—採譜と創作のはざまで—『日本伝統音楽研究』15 号、1-17 頁. 2019
17. 津上智実：『釜山日報』『朝鮮新聞』『毎日申報』に見るソプラノ歌手永井郁子（1893-1983）『女性学評論』33 号： 41-70. 2019
18. 津上智実：朝日新聞データベース「聞蔵 II」に見るソプラノ歌手永井郁子（1893-1983）『神戸女学院大学論集』65 巻 2 号： 83-100. 2018
19. 津上智実：東京音楽学校学友会『音楽』に見る芸術歌曲の「奨励」.『神戸女学院大学論集』65 巻 1 号：27-44. 2018
20. 竹内直：松平頼則の《南部民謡集》をめぐって—創作と採譜のはざまで—『日本伝統音楽研究』15 号：1-17. 2018
21. 津上智実：近代日本における芸術歌曲としての「日本歌曲」概念の成立『神戸女学院大学論集』64 巻 1 号：97-110. 2017 https://kobe-c.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5468&item_no=1&page_id=33&block_id=148
22. 時田アリソン： The Formation of Modern Musical Identity in Japan, Korea and China through the Art Song. 『日本伝統音楽研究』14 号：1-17. 2017
23. 劉麟玉：わらべうたを用いた初等音楽教育の実践についての研究ー但馬地域を中心にー『奈良教育大学研究紀要』６４巻 1 号：119-129. 2015（共著者：中井明日香）
24. 劉麟玉：日本時代の台湾音楽事情を辿る（五）『台湾協会報』727 号:2. 2015
25. 津上智実：アメリカン・ボード宣教師文書（ハーヴァード大学ホートン・ライブラリー所蔵）調査報告『神戸女学院大学論集』62 巻 2 号（通巻 175 号）： 201-210. 2015
26. 津上智実：トニック・ソルファの掛図と教本に見る明治期の音楽教育『神戸女学院大学論集』62 巻 1 号（通巻 174 号）：115-129. 2015

〔学会発表〕（計 68 件）
1. 仲 万美子：人々を魅了する商業広告からみる都市文化生活(1)：20 世紀初頭大連を事例に. 人々を魅了する商業広告からみる都市文化生活(1)：20 世紀初 頭大連を事例に. 国際日本文化研究センター. 2019 年 3 月 17 日
2. 劉麟玉：江文也の人生と音楽について　ワン・ホンカイ構成・演出"This is no country music"のために. シアターコモンズ実行委員会. 台北経済文化代表処　台湾文化センター（東京）. 2019 年 1 月 26 日
3. 竹内直：無声映画からトーキー映画初期～伝統音楽との関わり. 第 5 回伝音セミナー. 講師：竹内 直、白井 史人、長門 洋平. 2018 年 11 月 1 日
4. 仲 万美子：根付く近代の仕掛け. 共通テーマ「大連—重層する文明・往還する文化」比較文明学会関西支部第 39 回例会. 同志社女子大学今出川キ ャンパス. 2018 年 7 月 16 日
5. 時田アリソン：日本音楽の研究の内外. 国際日本文化研究センター創立 30 周年記念国際シンポジウム. 2018 年 5 月 20 日
6. 仲万美子：荻野綾子と藤原義江に関する資料の紹介. 新・都ホテル、ロビーラウンジ. 2018.4.29
7. 時田アリソン：プロジェクトのまとめと今後の課題. 新・都ホテル、ロビーラウンジ. 2018 年 4 月 29 日
8. 津上智実：日本歌曲の歴史. 新・都ホテル、ロビーラウンジ. 2018 年 4 月 29 日
9. 時田アリソン：オーストラリアの女性作曲家. オーストラリア学会関西支部定例会. 大手門学院大学. 2018 年 3 月 17 日
10. 時田アリソン：楽劇人に聞く：アリソン時田. 聞き手：薦田治子. 楽劇学会第 98 回例会. 音羽アカデミー東京. 2018 年 3 月 12 日
11. 仲万美子：大連の娯楽空間ところどころ—和物／洋物ライブ視聴・鑑賞の場のあり方—. 国際日本文化研究センター　国際共同第 10 回研究会　画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による帝国域内文化の再検討. 国際日本文化研究センター. 2018 年 3 月 3 日
12. 津上智実：東京音楽学校校友会発行『音楽』に見る芸術歌曲の「奨励」と実態. 京都市立芸術大学. 2018 年 1 月 8 日
13. 仲万美子：荻野綾子の歌曲演奏会曲目について：日本近代音楽館荻野綾子文庫収蔵スクラップブック収載資料を中心に. 京都市立芸術大学. 2018 年 1 月 8 日
14. 日下部祐子：唱歌の中のオペラ、そして芸術歌曲創作へ～歌詞と旋律を中心に. 京都市立芸術大学. 2018 年 1 月 8 日
15. 竹内直：松平頼則の創作における採譜の位置づけ. 東洋音楽学会第 68 回大会、沖縄県立芸術大学. 2017 年 11 月 12 日
16. 時田アリソン： Where are the Japanese Women Composers? Research and Archives. 梨花女子大学校音楽学大学院国際シンポジウム *Keeping Music Alive.* 2017 年 10 月 26 日
17. 時田アリソン：日本の音楽. 京都コンベンションビューロー. 2017 年 6 月 11 日.
18. 時田アリソン：東アジアとオーストラリアの音楽と近代を事例にして. 東洋音楽学会関西支部例会. 同志社女子大学今出川校. 小泉文夫音楽賞受賞記念講演. 2017 年 6 月 10 日. https://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/award/28at1.pdf
19. 仲万美子：陸路と海路の交差点に成立した興行空間：両大戦間における大連の西洋音楽公

演をめぐって. Panel title: *Colonial and Postcolonial Song: The Musical Aftermath of Japan's Withdrawal from Asia.* オーストラリア日本研究学会 (JSAA) Biennial Conference. ウーロンゴン大学. 2017 年 6 月 28 日

20. 竹内直： Post-colonial Identity in Okinawa under the United Sates Occupation: seen through the composer Kanai Kikuko (1906-1986). オーストラリア日本研究学会 (JSAA) Biennial Conference., ウーロンゴン大学. 2017 年 6 月 28 日
21. 時田アリソン : "From Glory to Opprobrium: Composers of Art Song in Pre- and Postwar Japan and Beyond". オーストラリア日本研究学会 (JSAA) Biennial Conference. ウーロンゴン大学. 2017 年 6 月 28 日
22. 竹内直: Post-colonial Identity in Okinawa under the United States Occupation: seen through the composer Kanai Kikuko (1911-1986) . 京都市立芸術大学. 2017 年 6 月 4 日
23. 時田アリソン: From Glory to Opprobrium: Composers of Art Song in Pre- and Postwar Japan and Beyond. 京都市立芸術大学. 2017 年 6 月 4 日
24. 仲万美子：陸路と海路の交差点に成立した興行空間：両大戦間における大連の西洋音楽公演をめぐって.京都市立芸術大学. 2017 年 6 月 4 日
25. 津上智実 : Japanese Art Songs and their Composers as seen in the pages of the journal *Gekkan Gakufu* 1912-1941. 国際シンポジウム. 同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
26. 仲万美子 : Interactions between composer, poet, vocalist, critic and audience for the reception, composition, and performance of Art Song in Japan in the first half of 20th century, as seen through the pages of contemporary periodicals. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
27. 竹内直 : Development of Japanese Art Songs in the late 1920's to 1930's and the Formation of an Art Song Canon. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
28. 日下部祐子：The Role of the Lyrics in Japanese Art Songs and their Peculiarity. 国際シンポジウム. 同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
29. 時田アリソン：A Transnational Perspective on Art Songs, Composers and the Formation of a Modern Musical Identity in East Asia and Australia, focusing on Two Modest Composers: Linda Phillips (1899-2002) and Chen Tianhe (1911-1955). 国際シンポジウム. 同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日.
30. 劉麟玉： The art songs of Jiang Wenye in the 1930s and 1940s: a contact point between Taiwan, Japan and China. 国際シンポジウム. 同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
31. Kyungboon LEE: Kim Sunnam: a Composer caught between Japan and South and North Korea. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
32. Joys H.Y. CHEUNG: Singing Ancient Piety and Modernity: Musical Translation of Huang Zi (1904-1938) and Filmic Use of an Art Song. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
33. Joel Crotty: A reality of the exotic: Australian cultural engagement with East Asia, as demonstrated through a selection of Duncan McKie's mid-20th century songs. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
34. 柿沼敏江：坪井秀人：コメンテイターThe Art Song and Musical Modernity in East Asia and Australia in the First Half of the 20th Century. 国際シンポジウム.同志社女子大学今出川キャンパス. 2017 年 3 月 26 日
35. 時田アリソン : *The art song and cultural identity in the colonial settings of East Asia and Australia.* 国際音楽学会(IMS) 東京大会ラウンドテーブル.東京藝術大学. 2017.3.23
36. 津上智実 : Reception of the Western Art Song in Modern Japan as Observed in the Terminology. 国際音楽学会(IMS)東京大会ラウンドテーブル. 東京藝術大学. 2017.3.23
37. 竹内直 : Development of Japanese Art Songs in the late 1920's to 1930's and the Formation of an Art Song Canon. 国際音楽学会(IMS) 東京大会ラウンドテーブル, 東京藝術大学. 2017.3.23
38. 仲万美子：Performances of Art Song in Dalian and Seoul by Touring Japanese Vocalists. 国際音楽学会(IMS) 東京大会ラウンドテーブル. 東京藝術大学. 2017.3.23
39. Joel Crotty： Links between Australia and Asia through Art Song. 国際音楽学会(IMS)東京大会ラウンドテーブル. 東京藝術大学. 2017.3.23
40. Joys Cheung : Art Songs in China. 国際音楽学会(IMS) 東京大会ラウンドテーブル. 東京藝術大学. 2017.3.23
41. 時田アリソン:芸術歌曲による日本、朝鮮、中国における近代音楽の帰属意識の形成. 京都市立芸術大学. 2016 年 12 月 23 日
42. 坪井秀人:芸術歌曲の歌詞と詩. 京都市立芸術大学. 2016 年 12 月 23 日
43. 時田アリソン：徹底討論！邦楽未来への行動. 第 4 回「全国邦楽合奏フェスティバル」前夜祭～あわ邦楽サミット～. 四国神山温泉. 2016 年 12 月 9 日

44. 竹内直:伊藤昇(1903-1993)の歌曲とFuturism. 京都市立芸術大学. 2016年12月3日
45. 津上智実:朝日新聞と読売新聞にみる日本歌曲;永井郁子の邦語独唱会. 京都市立芸術大学. 2016年12月3日
46. 日下部祐子:仏訳された日本の短歌と旋律の関係. 京都市立芸術大学. 2016年9月10日
47. 津上智実:*The Birth of Art Song in Modern Japan*. 京都市立芸術大学. 2016年9月10日
48. 竹内直:カノンと歌曲集. 京都市立芸術大学. 2016年9月10日
49. 時田アリソン:韓国の芸術歌曲の発展について. 京都市立芸術大学. 2016年9月10日
50. 仲万美子:近代音楽の帰属意識からみた山田耕筰の位置づけに関する提言. 京都市立芸術大学. 2016年9月10日
51. 仲万美子:モダン都市の娯楽空間への誘いの仕掛けについて:大連を映し出す画像資料からの読み解きを通して. 国際共同研究会「画像資料(絵葉書・地図・旅行案内・写真等)による帝国域内文化の再検討」. 国際日本文化研究センター. 2016年8月6
52. 津上智実:The Birth of Art Song in Modern Japan. 国際美学会. ソウル国立大学校. 2016.7 27
53. 時田アリソン:中国芸術歌曲の発展について. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日
54. 仲万美子:大正時代の芸術歌曲に対するイメージ:雑誌『近代音楽』『詩と音楽』などに掲載された作曲家・演奏家の言葉をもとに. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日
55. 津上智実:『月刊楽譜』に見るシューベルト歌曲の扱い. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日
56. 竹内直:短歌と日本歌曲〜前田夕暮と松平頼則. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日
57. 劉 麟玉:江文也の歌曲について. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日. コメント:坪井秀人
58. 竹内直:荻野綾子と日本の作曲〜東京芸術大学図書館所蔵荻野綾子資料の概要. 京都市立芸術大学大学. 2016年7月17日
59. 仲万美子:大連の女学生にとっての邦楽/洋楽聴取・実践の「場」とは演奏候補相反する都市イメージをもつ「京都」との比較考察演奏候補. 音楽表現学会第14回(メム)大会. 拓殖大学北海道短期大学. 2016年6月5日
60. 仲万美子:大連などで開催された日本人/外国人の演奏会状況(1):調査分析のための方針と『満州年鑑』創刊号掲載記事から見る演奏環境の特質. 京都市立芸術大学. 2016年4月16日
61. 日下部祐子:1910-1940年頃の台湾の作曲家の状況. 京都市立芸術大学. 2016.4.16
62. 津上智実:日本語の歌はどのように呼ばれてきたか?『月刊楽譜』に見る歌曲の呼称. 京都市立芸術大学. 2016年4月16日
63. 柿沼敏江:Harry Partchの歌とアメリカのアイデンティティ. 京都市立芸術大学. 2016.4.16.
64. 竹内直:伊藤昇と松平頼則の歌曲. 京都市立芸術大学. 2016年4月16日
65. 竹内直:伊藤昇の歌曲をめぐって:探求されなかった『未来派』の道. 京都市立芸術大学. 2015年12月5日
66. 津上智実:『月刊楽譜』付録楽譜からの演奏候補曲について. 京都市立芸術大学. 2015.12.5
67. 時田アリソン:The Art Song as Colonial Modernity in East Asia.オーストラリア音楽学会大会、シドニー大学、2015年10月2日
68. 時田アリソン: Globetrotters and Performance circuits in East Asia, 1900-1945. 国際伝統音楽協議会(ICTM)大会、アスタナ、カザフスラン、2015年7月21日

〔図書〕(計10件)

1.時田アリソン・竹内直編『植民地における近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合—』(平成 27〜30 年度科学研究費助成金研究成果報告書、課題番号 15K 02117、基盤研究C、研究 代表者:時田アリソン). 2019年3月31日.(全100頁+CD-ROM)

2.時田アリソン:Narrative, in Musical Form and Performance *The SAGE International Encyclopedia of Music and Culture*, edited by Janet Sturman. Sage Publications, Thousand Oaks, US, 1549-1553(全2728頁). 2019

3.秦源治、劉建輝、仲万美子 共著『大連ところどころ—画像でたどる帝国のフロンティア—』晃洋書房、2018年3月27日. 執筆担当:第4章 メディアと娯楽 第2節 娯楽—ライブ視聴・鑑賞空間 168〜181頁

4.柿沼敏江監修、滝奈々子・竹内直共編、京都市立芸術大学芸術資源研究センター、『Un Trabajo del Profesor Usaburo Mabuchi de 1976 —グアテマラ高地チャフル・イシルの縦笛と両面太鼓』、2017.3(36頁)

5.津上智実編『神戸女学院大学音楽学部「音楽によるアウトリーチ」活動記録集、2002-2004, 2009-2014』(2016年3月30日)、i+224頁+DVD(93分)、「『音楽によるアウトリーチ』15年の歩み」3-14頁。

6.津上智実編『C. B. デフォレスト書簡の解読(I)(1905—1919)アメリカン・ボード宣教師文書より』(神戸女学院大学「宣教師文書」研究会、2016年1月27日)208頁、共著者/飯謙、田辺希久子、担当箇所/序、アメリカン・ボード宣教師文書とデフォレスト書簡(14-21頁)

7.時田アリソン:Katari Narrative Traditions: from story-telling to theatre. *A History of Japanese*

Theatre. Edited by Jonah Salz. Cambridge University Press, Cambridge, UK. 20-23.（全 590 頁）2016
８.劉麟玉編「奈良県のわらべうた教材作成と授業実践プランの開発—ESD としての音楽科教育を実現させるために」平成２７年度 ESD を核として教員養成の高度化（運営費交付金）プロジェクト研究成果報告書（研究代表者：劉麟玉）、奈良教育大学 2016 年 3 月（全 80 頁）
９.津上智実編：『山本通時代の神戸女学院、女子教育の黎明期とその歩み』（日本キリスト教団出版局、2015 年９月５日）96 頁、共著者／飯謙、原田園子、谷祝子、井上紀子、佐伯裕加恵、小澤妙子、担当箇所／第３章「初期の音楽教育」45-61 頁、「おわりに」92-93 頁。
１０.大友直人、津上智実、有田栄『わからない音楽なんてない?子どものためのコンサートを考える』（アルテスパブリッシング、2015 年 11 月 25 日）330 頁、担当箇所／はじめに（1-5 頁）、第１章（13-47）、第３章（84-136）、第４章（138-263）、第 6 章（285-310）、あとがき（311-314）、附録（巻末 10-46）

〔その他〕
劉麟玉：解説、ピアノ演奏：江文也作曲《喇嘛廟》、ピアノ伴奏：江文也編曲《聖母頌》（アヴェマリア）、江文也編曲《有酒矸倘賣沒》（酒瓶を売ってくれないか）イベント名「20 世紀の東アジア史に翻弄された作曲家。江文也、「国家」という枠組の間で紡がれた「国なき譜（うた）」を再現する、異色の「学校／リハーサル」2019.3.2~3、主催：シアターコモンズ実行委員会、場所：台北経済文化代表処　台湾文化センター（東京）
日下部祐子：《芸術歌曲の誕生と音楽の近代》レクチャーコンサート. 京都府民ホールアルティ. 2017.3.25
日下部祐子：「フォーレ《優しき歌》とドビュッシー《ポール・ブルジュの詩による初期の歌曲》」. 兵庫県立美術館. フォーレの歌曲では後期の方に、またドビュッシーではごく初期から東洋的な響きが聴き取れます。これら作品の作曲年代は 1890 年代～1900 年代初頭にかけてで、東アジア地域の歌曲と文化の往き来が興味深いです. 2016.10.16
日下部祐子：《タンスマンとチェレプニン》：三条猪熊町屋レクチャーコンサート. 2016.10.10
日下部祐子：「京町屋三条猪熊コンサート」山田耕筰や團伊玖磨と、アーンやデュパルクを対比させた. 2016.9.23
日下部祐子:《山田耕筰と日本の現代作品》プラハ=京都姉妹都市 20 周年記念事業コンサート：ドボルザークホール（チェコ・プラハ）. 2016.6.11 日
日下部祐子：兵庫県立美術館近代フランスの作曲家フォーレとドビュッシー、歌曲に見る東洋の調べ.レクチャーコンサート. 2015.11
日下部祐子：京町屋における地域社会へのアプローチ（京都芸術祭音楽部門コミュニティー賞受賞）. レクチャーコンサート. 2015.9

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：津上智実
ローマ字氏名：TSUGAMI Motomi
所属研究機関名：神戸女学院大学
部局名：音楽学部音楽学科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20212053

研究分担者氏名：仲万美子
ローマ字氏名：NAKA Mamiko
所属研究機関名：同志社女子大学
部局名：学芸学部音楽学科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：50388063

研究分担者氏名：日下部祐子
ローマ字氏名：　KUSAKABE Yuko
所属研究機関名：京都市立芸術大学
部局名：音楽学部
職名：非常勤講師
研究者番号（8 桁）：90727041

研究分担者氏名：劉麟玉
ローマ字氏名：　LIOU Linyu
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教育学部音楽教育講座
職名：教授
研究者番号（8 桁）：40299350

研究分担者氏名：竹内直
ローマ字氏名：TAKEUCHI Nao
所属研究機関名：京都市立芸術大学
部局名：日本伝統音楽研究センター
職名：非常勤講師
研究者番号（8 桁）：70750438

(2)研究協力者
研究協力者氏名：李　京粉
ローマ字氏名：Kyungboon LEE

研究協力者氏名：張　海欣
ローマ字氏名：Joys H.K. CHEUNG

研究協力者氏名：ジョエル・クロッティー
ローマ字氏名：Joel Crotty

(3)連携研究者
連携研究者氏名：柿沼敏江
ローマ字氏名：KAKINUMA Toshie

連携研究者氏名：坪井秀人
ローマ字氏名：TSUBOI Hideto